

事故等の発生状況

鉄軌道運転事故

鉄軌道運転事故は、下記のように7種類に分類されます。平成21年度は、踏切障害事故と道路障害事故・鉄道人身障害事故が計17件発生し、この3種類以外の事故は発生していません。

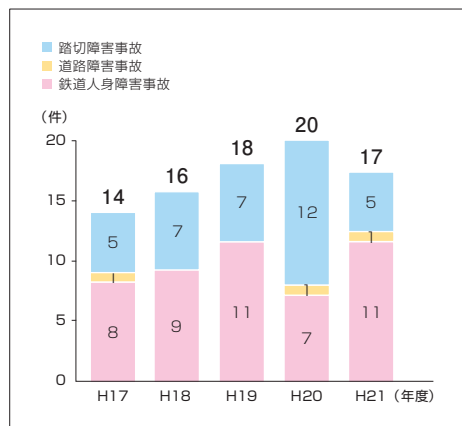
鉄軌道運転事故の分類

種類	内容
列車衝突事故	列車が他の列車または車両と衝突し、または接触した事故をいう。
列車脱線事故	列車が脱線した事故をいう。
列車火災事故	列車に火災が生じた事故をいう。
踏切障害事故	踏切道において、列車または車両が道路を通行する人または車両などと衝突し、または接触した事故をいう。
道路障害事故	踏切道以外の道路において、列車または車両が道路を通行する人または車両などと衝突し、または接触した事故をいう。
鉄道人身障害事故	列車または車両の運転により人の死傷を生じた事故(前各号の事故に伴うものを除く)をいう。
鉄道物損事故	列車または車両の運転により500万円以上の物損を生じた事故(前各号の事故に伴うものを除く)をいう。

踏切障害事故は、完全下降している踏切遮断桿を突破した自動車が、列車と接触したもののほか、人や自転車が踏切内に侵入したことによるもの、道路障害は自動車が急に右折し軌道敷内に侵入したことによるもの、鉄道人身障害はホームからの飛び降りやホーム上での接触などによるものです。

鉄軌道運転事故

年度	H17	H18	H19	H20	H21
列車衝突事故	0	0	0	0	0
列車脱線事故	0	0	0	0	0
列車火災事故	0	0	0	0	0
踏切障害事故	5	7	7	12	5
道路障害事故	1	0	0	1	1
鉄道人身障害事故	8	9	11	7	11
鉄道物損事故	0	0	0	0	0
合計	14	16	18	20	17

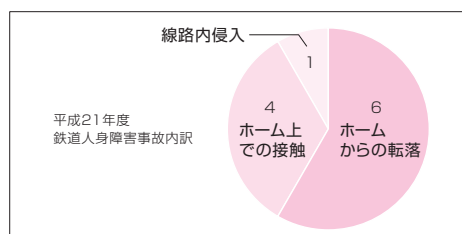


踏切障害事故の内訳

年度	H17	H18	H19	H20	H21
直前横断	5	6	4	7	5
その他	0	1	3	5	0
合計	5	7	7	12	5

鉄道人身障害事故の内訳

年度	H17	H18	H19	H20	H21
ホームからの転落	3	2	3	3	6
ホーム上での接触	4	4	3	3	4
線路内侵入	1	3	5	1	1
合計	8	9	11	7	11



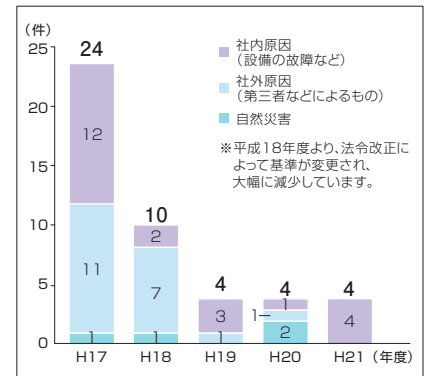
輸送障害

輸送障害とは、鉄道による輸送に障害を生じた事態であって、鉄道運転事故以外のもの(列車の運転休止または30分以上の遅延が生じたもの)をいいます。

平成21年度は、4件発生しました。

輸送障害

年度	H17	H18	H19	H20	H21
社内原因(設備の故障など)	12	2	3	1	4
社外原因(第三者などによるもの)	11	7	1	1	0
自然災害	1	1	0	2	0
合計	24	10	4	4	4



インシデント

インシデントとは、事故には至らなかったが、事故につながる可能性のあった事態をいいます。監督官庁に届け出ることや社内内で周知することにより、事故の未然防止に役立てています。昨年度は2件発生しました。

インシデント

年度	H17	H18	H19	H20	H21
インシデント	0	0	0	0	2

①平成21年8月8日20時08分、枚方市駅において、信号故障のため列車を代用手信号により駅から出発させる際、進路確認が不明確なまま進行信号を指示させたところ、本来の線路とは別の線路に進入した。

【対策】●関係規程を改正し、信号故障のときは、必ず信号制御を運行管理システムによる自動扱いから、駅手動扱いに変えて、駅長の責任で進路確認するように明記した。(平成21年10月)
●同様の故障を想定した実設訓練を実施し、対応方を身につけた。(平成21年11月)

②平成22年1月3日10時45分、男山ケーブル八幡市駅において、ケーブルカー出発時に開扉した際、ホーム案内係員が手を挟んだため緊急開扉したが、起動回路が構成済みであったことから開扉状態で約7m走行した。

【対策】●教育指導を徹底させた。
●制御回路を変更して、起動回路が構成された後は、開扉できないようにした。また、アクシデントなどにより走行中に開扉したときは、直ちにケーブルカーを停止させるようにした。(平成22年6月)